



60代の実像③：生活満足度を高める要因 ～住まい、資産水準、年齢、家族構成～

「60代6000人の声」アンケート調査2025より

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

2025年3月20日

4月10日改定

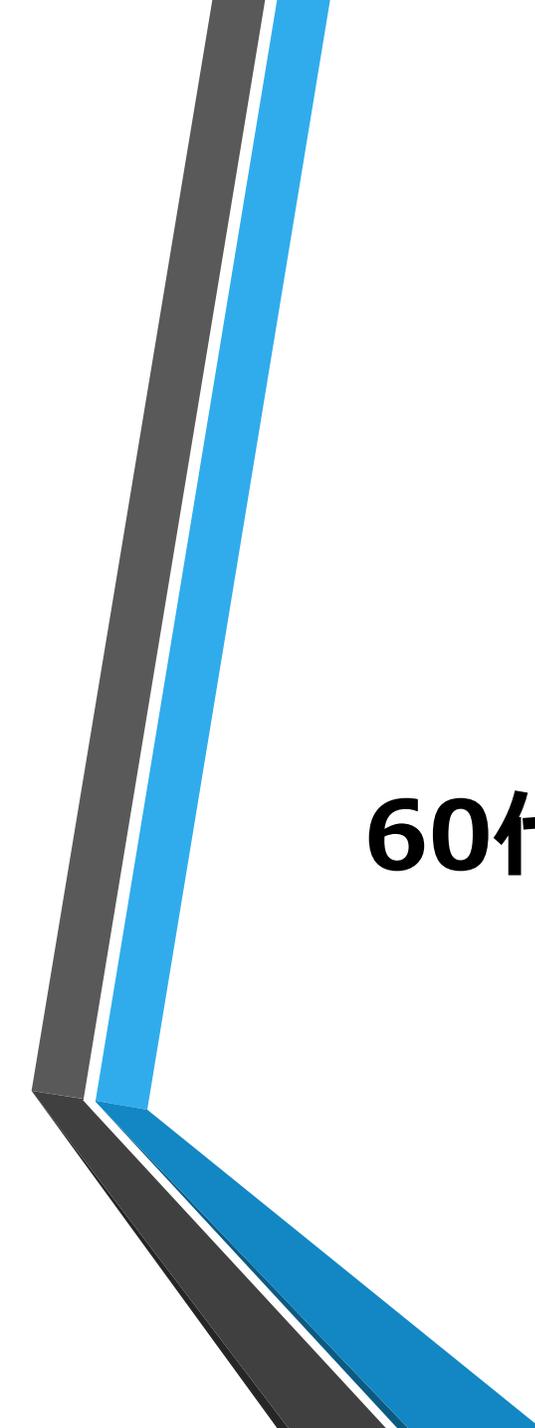
60代6000人の声：データ分析結果の要旨

□ 賃貸か、持ち家か

- 60代6000人の都市生活者は、その4分の3が持ち家派
- 持ち家派の方が生活全般の満足度は高い
- そのため、持ち家派は、住んでいる都市の評価軸に「家賃や住居費の安さ」を入れていない。
- 重回帰分析の結果でも、持ち家の生活全般の満足に与える影響は大きいことが分かった

□ 5つの満足度に影響を与えているもの

- 5つの満足度に共通に影響しているのは、①年齢が高いほど、②配偶者がいるほど、③世帯年収が高いほど、④70代の生活イメージが明るいほど、すべての満足度が高い。

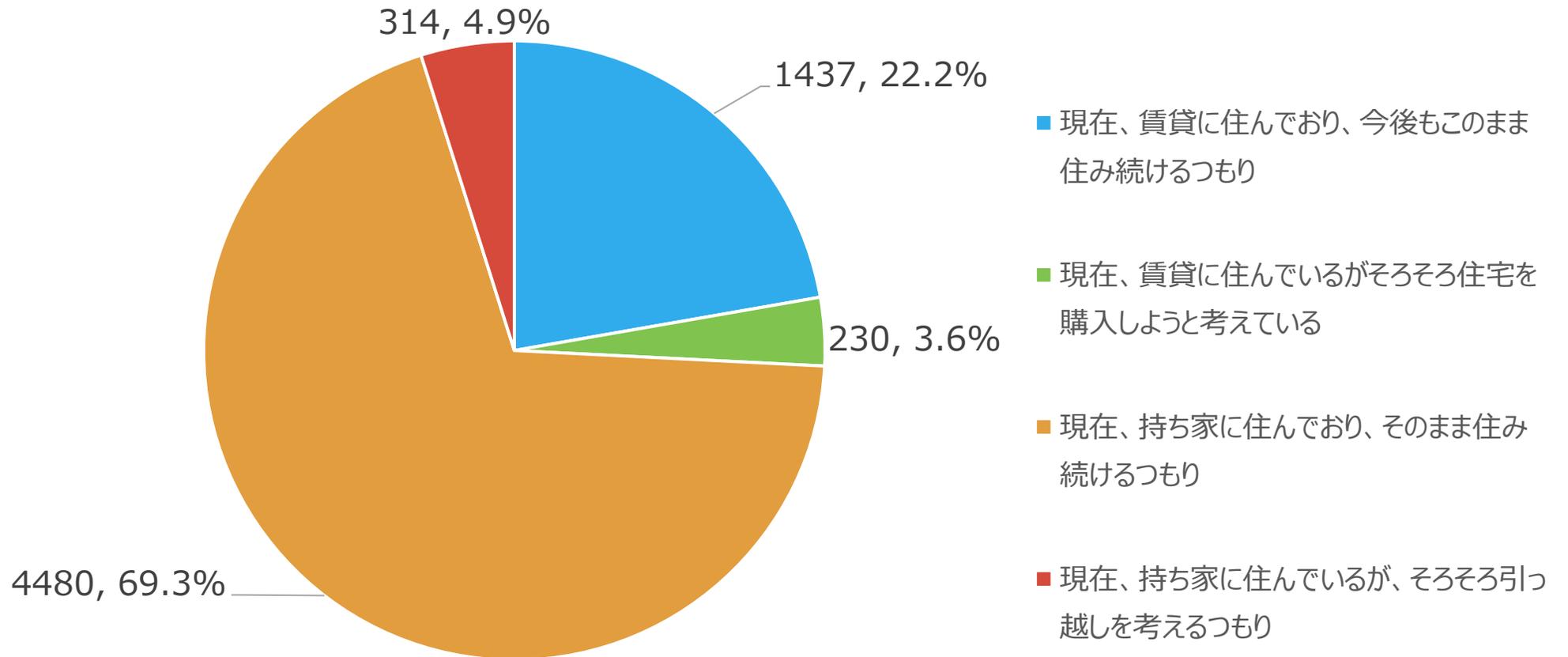


60代6000人の声 2025 : 持ち家と生活全般の満足度

4分の3が持ち家

現在の居住状況

(単位：人、%)

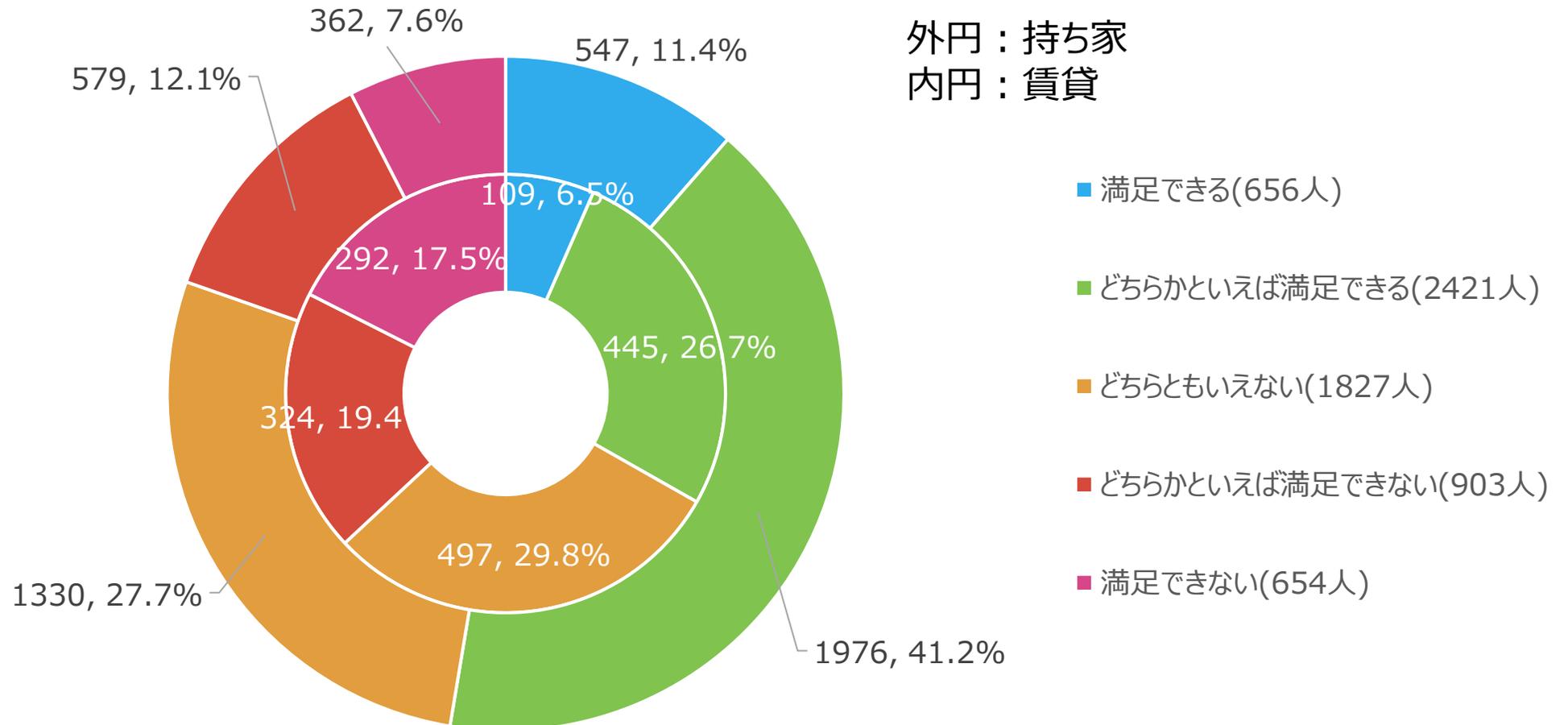


(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

持ち家が生活全般の満足度に

居住状況別の生活全般の満足度

(単位：人)

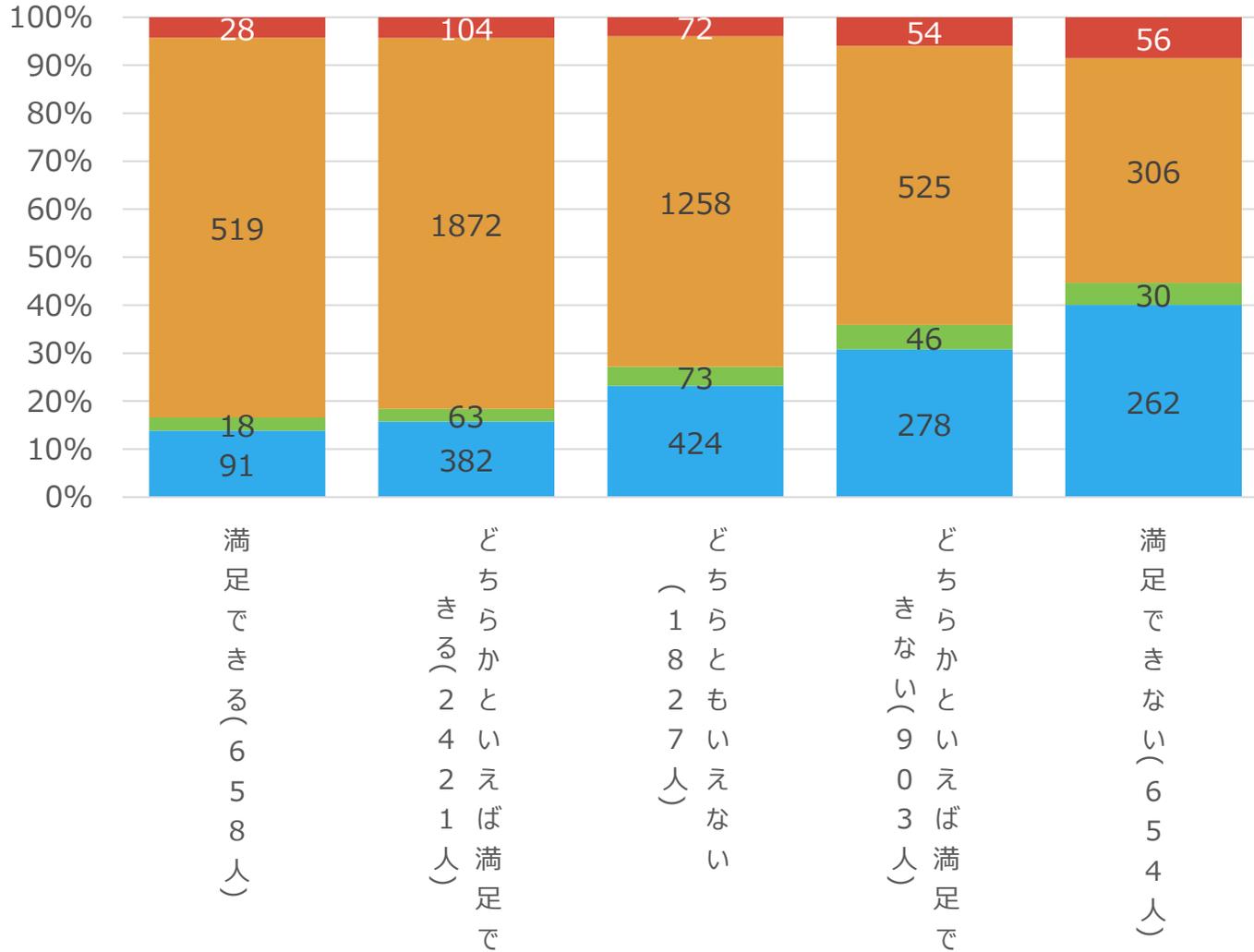


(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

持ち家が生活全般の満足度に

生活全般の満足度別の居住状況

(単位：人)



- 現在、持ち家に住んでいるが、そろそろ引っ越しを考えるつもり
- 現在、持ち家に住んでおり、そのまま住み続けるつもり
- 現在、賃貸に住んでいるがそろそろ住宅を購入しようと考えている
- 現在、賃貸に住んでおり、今後もこのまま住み続けるつもり

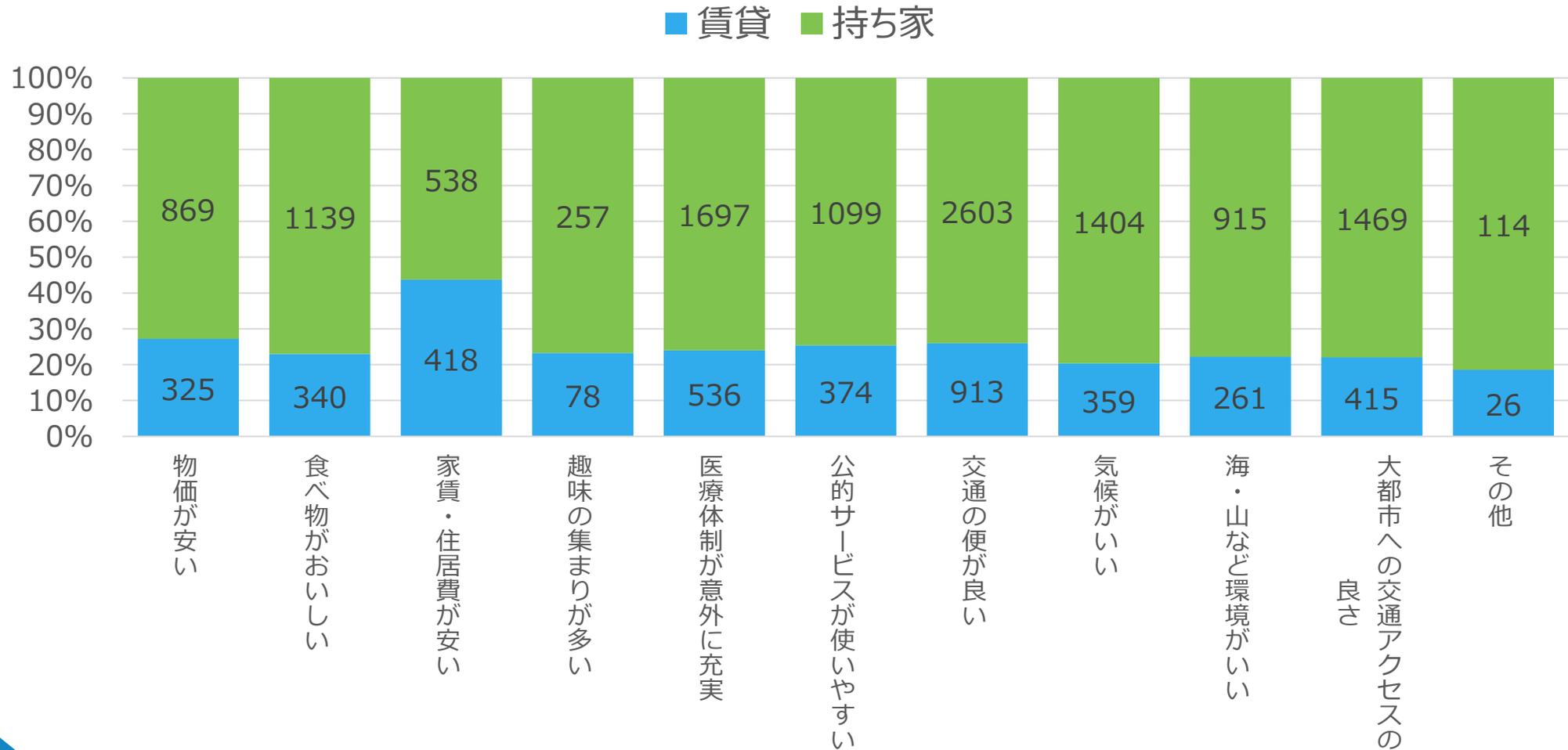
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

持ち家が都市評価の一因

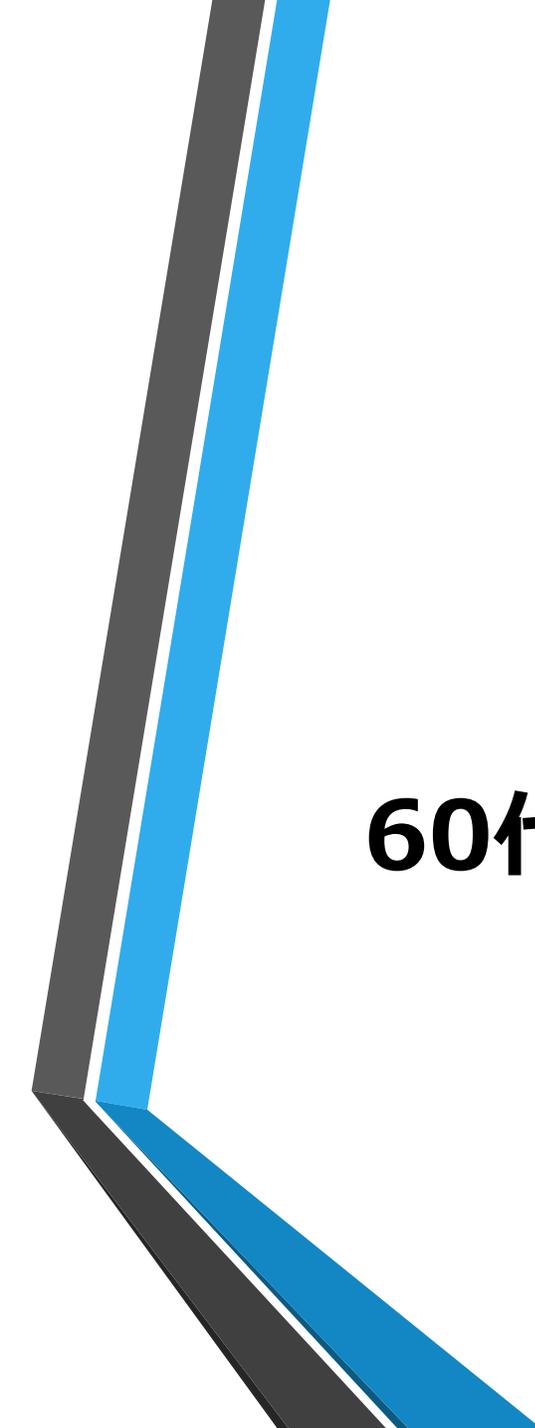
都市の良いところの項目別の居住状況

(単位：%)



(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved



60代6000人の声 2025 : 生活全般の満足度を高める要因

生活全般満足度への影響力

生活全般の満足度を被説明変数とした重回帰分析

重相関係数	決定係数	変数	偏回帰係数	P値	
R	0.7274	資産水準満足度	0.387	P < 0.001	**
修正R	0.7269	健康状態満足度	0.177	P < 0.001	**
R2乗	0.5291	人間関係満足度	0.175	P < 0.001	**
修正R2乗	0.5283	居住状況	0.146	P < 0.001	**
		仕事・やりがい満足度	0.143	P < 0.001	**
		配偶者	0.136	P < 0.001	**
		70代以降の生活イメージ	-0.113	P < 0.001	**
		同居の親	-0.091	0.0048	**
		資産運用状況	0.089	P < 0.001	**
		年金受給	0.080	P < 0.001	**
		定数項	0.524	P < 0.001	**

注) 70歳以降の生活のイメージは良くなっている = 1、変わらない = 2、悪くなっている 3 で計算しているため、数値のマイナスは良くなっているほど生活全般の満足度が高いことを意味する。居住状況は持ち家 = 1としてダミー化、配偶者は有り = 1としてダミー化、同居の親は有り = 1としてダミー化、資産運用状況は運用している = 1としてダミー化、年金受給は受給 = 1としてダミー化。**はP値1%以下の有意水準

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

年齢、配偶者、年収が影響

それぞれの満足度は何に影響を受けるのか(重回帰分析結果①)

変数	生活全般満足度		資産水準の満足度	
	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値
R2乗	0.213		0.309	
年齢	0.0222	P < 0.001 **	0.0205	P < 0.001 **
性別	-0.1489	P < 0.001 **	-0.1442	P < 0.001 **
配偶者	0.2736	P < 0.001 **	0.1425	P < 0.001 **
同居の子ども	-0.0768	0.0093 **	-0.0490	0.0817
同居の親	-0.1159	0.0055 **	0.0113	0.7765
居住状況	0.2817	P < 0.001 **	0.2544	P < 0.001 **
世帯年収	0.0302	P < 0.001 **	0.0182	P < 0.001 **
世帯資産	0.0037	P < 0.001 **	0.0103	P < 0.001 **
年金受給	0.0584	0.1017	0.0166	0.6258
年間生活費	-0.0071	0.2413	-0.0160	0.0060 **
お金の近視眼度	0.0307	P < 0.001 **	0.0486	P < 0.001 **
資産運用	0.2251	P < 0.001 **	0.2404	P < 0.001 **
70代以降生活観	-0.4697	P < 0.001 **	-0.5273	P < 0.001 **
資産の使い道	-0.0028	0.7700	0.0062	0.4890

- 5つの満足度に共通に影響しているのは、①年齢が高いほど、②配偶者がいるほど、③世帯年収が高いほど、④70代の生活イメージが明るいほど、すべての満足度が高い。
- 子どもが同居していること、親が同居していることが生活全般の満足度を下げている。
- 世帯資産の多さは生活全般と資産水準の満足度だけで有意に影響している。
- お金に対する近視眼的な見方が少ないほど生活全般、資産水準の満足度が高い。
- 年金受給の有無は、生活全般、資産水準ともに影響がなかった。
- 年間生活費が高いほど資産水準の満足度は低くなる

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1 でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」が当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満の有意度 (出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

年齢、配偶者、年収が影響

それぞれの満足度は何に影響を受けるのか(重回帰分析結果②)

変数	人間関係の満足度		仕事やりがい満足度		健康水準の満足度	
	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値
R2乗	0.089		0.096		0.088	
年齢	0.0198	P < 0.001 **	0.0261	P < 0.001 **	0.0204	0.0012 **
性別	-0.1397	P < 0.001 **	-0.0708	0.0144 *	-0.0943	0.0023 **
配偶者	0.2438	P < 0.001 **	0.1183	P < 0.001 **	0.1421	P < 0.001 **
同居の子ども	-0.0185	0.5002	-0.0321	0.2621	-0.0110	0.7188
同居の親	-0.0947	0.0149 *	-0.0014	0.9732	-0.0878	0.0421 *
居住状況	0.0647	0.0227 *	0.0656	0.0264 *	0.1113	P < 0.001 **
世帯年収	0.0276	P < 0.001 **	0.0441	P < 0.001 **	0.0212	P < 0.001 **
世帯資産	0.0009	0.0673	-0.0003	0.4914	0.0002	0.6505
年金受給	0.0191	0.5656	-0.0741	0.0321 *	-0.1204	0.0011 **
年間生活費	0.0007	0.8986	0.0010	0.8686	-0.0039	0.5352
お金の近視眼度	-0.0029	0.7119	0.0087	0.2810	-0.0048	0.5760
資産運用	0.0639	0.0177 *	0.0910	0.0012 **	0.1317	P < 0.001 **
70代以降生活観	-0.2542	P < 0.001 **	-0.3006	P < 0.001 **	-0.3834	P < 0.001 **
資産の使い道	-0.0090	0.3051	-0.0246	0.0071 **	-0.0453	P < 0.001 **

- 配偶者がいることが人間関係の満足度を高めるように大きく影響している。
- 資産運用を行っていることが仕事やりがい、健康水準の満足度を引き上げるように働いている。

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意度（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

都市規模別の生活全般満足度

変数	全都市		30万人以上都市		100万人以上都市		3大都市	
	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値
健康状態満足度	0.1785	P < 0.001**	0.2157	P < 0.001**	0.1538	P < 0.001**	0.1677	P < 0.001**
仕事・やりがい満足度	0.1395	P < 0.001**	0.0785	P < 0.001**	0.1589	P < 0.001**	0.1757	P < 0.001**
人間関係満足度	0.1742	P < 0.001**	0.1776	P < 0.001**	0.2003	P < 0.001**	0.1509	P < 0.001**
資産水準満足度	0.3827	P < 0.001**	0.3818	P < 0.001**	0.3668	P < 0.001**	0.3971	P < 0.001**
年齢	0.0036	0.4461	0.0004	0.9563	0.0168	0.0437*	-0.0039	0.6333
性別	-0.0427	0.0645	-0.0697	0.0689	-0.0319	0.4414	-0.0423	0.3011
配偶者	0.1347	P < 0.001**	0.1196	0.0040**	0.1476	P < 0.001**	0.1171	0.0040**
同居の子ども	-0.0483	0.0341*	-0.0247	0.5286	-0.0628	0.1094	-0.0703	0.0838
同居の親	-0.0879	0.0064**	-0.0626	0.2100	-0.1074	0.0739	-0.1301	0.0303*
居住状況	0.1441	P < 0.001**	0.0828	0.0542	0.2012	P < 0.001**	0.1271	0.0013**
世帯年収	0.0085	0.0057**	0.0134	0.0217*	0.0107	0.0561	0.0052	0.2851
世帯資産	-0.0003	0.3904	0.0006	0.4268	-0.0012	0.1079	-0.0003	0.6416
年金受給	0.0805	0.0035**	0.0649	0.1708	0.0169	0.7266	0.1517	0.0016**
年間生活費	-0.0006	0.8994	0.0031	0.7140	0.0083	0.3421	-0.0082	0.2736
お金の近視眼度	0.0123	0.0577	0.0106	0.3522	0.0116	0.2993	0.0115	0.3036
資産運用状況	0.0858	P < 0.001**	0.0150	0.6961	0.1202	0.0022**	0.1124	0.0041**
70代以降の生活イメージ	-0.1132	P < 0.001**	-0.1181	P < 0.001**	-0.1221	P < 0.001**	-0.0992	0.0011**
資産の使い道優先度	0.0079	0.2756	-0.0062	0.6082	0.0264	0.0406*	0.0062	0.6342
定数項	0.2743	0.3610	0.6623	0.1988	-0.6644	0.2110	0.6780	0.1887
R2乗	0.5305		0.5139		0.5361		0.5520	

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意水準（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

実家移住者の満足度平均点

	実家のある都市に 移住を検討している人	実家のある都市に 移住した人	全体
該当者数	59人	143人	6461人
生活全般満足度	2.90点	3.22点	3.24点
健康状態満足度	3.15点	3.22点	3.29点
仕事・やりがい満足度	3.20点	3.13点	3.18点
人間関係満足度	3.47点	3.45点	3.50点
資産水準満足度	2.92点	2.87点	2.78点

(注)移住した人は過去10年以内に30万人以上の都市、または100万人以上の都市に移住した人。3大都市への移住は除く。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

実家移住者の満足度

変数	全回答者		実家のある都市に 移住した人の生活満足度		実家のある都市に 移住を検討中の人の生活満足度	
	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値
健康状態満足度	0.1785	P < 0.001**	0.1951	0.0195*	0.5583	P < 0.001**
仕事・やりがい満足度	0.1395	P < 0.001**	0.0647	0.4975	0.3528	0.0242*
人間関係満足度	0.1742	P < 0.001**	0.3017	P < 0.001**	-0.0029	0.9830
資産水準満足度	0.3827	P < 0.001**	0.3273	P < 0.001**	0.2222	0.1183
年齢	0.0036	0.4461	-0.0472	0.1529	0.0078	0.9148
性別	-0.0427	0.0645	-0.1346	0.3817	-0.1718	0.6095
配偶者	0.1347	P < 0.001**	0.1254	0.4289	-0.1043	0.7036
同居の子ども	-0.0483	0.0341*	-0.0295	0.8573	0.0048	0.9887
同居の親	-0.0879	0.0064**	0.1957	0.3188	-0.7814	0.2226
居住状況	0.1441	P < 0.001**	0.0156	0.9134	0.1809	0.5109
世帯年収	0.0085	0.0057**	-0.0097	0.6737	0.0164	0.7233
世帯資産	-0.0003	0.3904	0.0009	0.7505	-0.0016	0.7978
年金受給	0.0805	0.0035**	0.1292	0.4647	0.1503	0.7481
年間生活費	-0.0006	0.8994	0.0731	0.1165	0.0085	0.8778
お金の近視眼度	0.0123	0.0577	-0.0481	0.2729	0.0272	0.7662
資産運用状況	0.0858	P < 0.001**	-0.0460	0.7652	0.3903	0.1371
70代以降の生活イメージ	-0.1132	P < 0.001**	-0.2359	0.0930	0.0986	0.6044
資産の使い道優先度	0.0079	0.2756	-0.0873	0.0808	0.0442	0.6518
定数項	0.2743	0.3610	4.1307	0.0632	-1.7157	0.7120
R2乗	0.5305		0.6350		0.7599	

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意水準（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所